



Interview:
福島交通株式会社さま
楽しい旅の演出は
タブレットにおまかせ

福島県での生活や観光に欠かせない公共交通インフラを展開する福島交通。旅行のバスガイドが手にするのは、薄くて小さい1台のタブレットだ。

※この記事のインタビュー動画を、ドコモの法人向けアプリ「ビジどこ」と法人向けサイト「ドコモビジネスオンライン」にてご紹介しています。

Interview: FUKUSHIMA TRANSPORTATION

旅をさらに楽しんでいただくために

福島交通は福島県中通り地方を主要エリアとした路線バス・高速バス・貸切バスを運行し、福島と飯坂温泉をつなぐ飯坂電車を運営する。同社はさらなるサービス向上のため、バスガイド向けにタブレットを導入した。



*1: 公益社団法人日本バス協会が平成23年度から開始した「貸切バス事業者安全性評価認定制度」では、認定を受けた事業者の貸切バスに「SAFETY BUS」(セーフティバス)のシンボルマークが交付される。初年度は一つ星からスタートし、2年ごとの認定審査を経て、最短で4年後に最高ランクの三つ星になることができる。



福島交通株式会社
 代表取締役社長
 武藤 泰典氏



福島交通株式会社
 常務取締役
 城下 和彰氏

「バス事業や鉄道事業を通じて、福島交通は地域の方々に生活の足と観光の楽しさを提供している会社です。お客さまから支持される公共交通機関を目指し、近年はICカード乗車券のデータを経営やサービスの改善、路線再編などに活かす新しい取り組みにも力を入れています」と代表取締役社長の武藤泰典さんは語る。

同社は貸切バスの安全面においても日々努力と改善を積み重ね、福島県で初めて「SAFETY BUS」二つ星^{*1}を獲得した。そして「安全なバスの旅を、お客さまにより一層お楽しみいただくため、24名のバスガイド全員にタブレットを支給しました」と語るのは、常務取締役の城下和彰さんだ。

Service & Solution:

マルチに活躍する軽量薄型タブレット

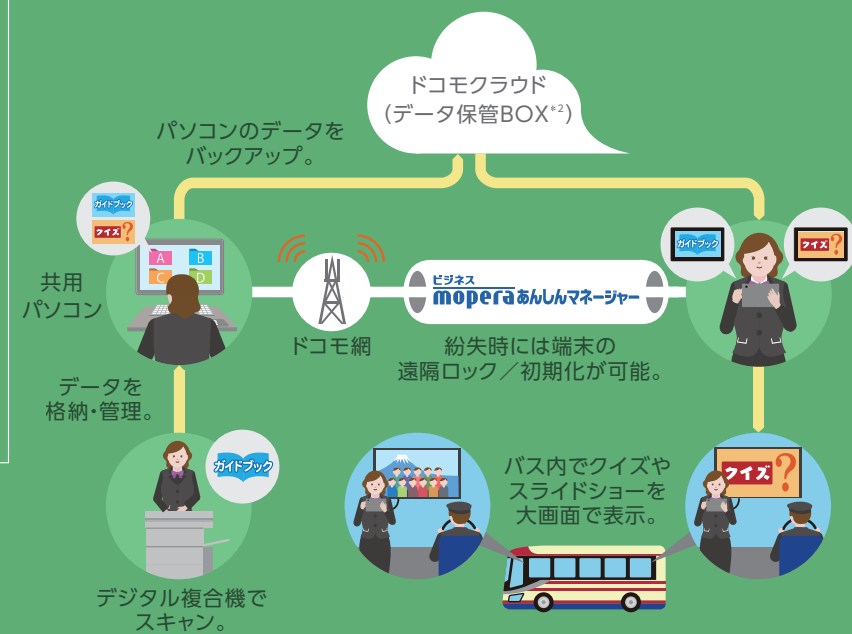
業務効率とサービスの向上に向けて

福島交通が導入したのは、女性の手のひらに収まる軽量薄型の7インチタブレット「AQUOS PAD SH-08E」。目的は大きく三つある。これまで共有パソコンで行っていた旅の見所や豆知識などの情報収集をいつでもどこでも行えるようにすること、子ども向けクイズなどを手書きしたスケッチブックを電子化して観光ガイドブックと併用すること、そして、お客さまが撮影した写真を旅の帰路に車載テレビでスライドショーとして見せることだ。

あらゆる情報をタブレットに格納

「タブレットなら走行中も検索でき、お客様の質問にもすぐにお答えできます。また、重くてかさばるエリア別のガイドブックや紙資料がタブレット1台に集約されて、事前の準備や持ち運び、不携帯の心配といった負担も解消されました」とガイドの植野真樹子さんは笑顔で語る。

《バスガイド業務支援システム》



*2 データ保管BOX: 会社のパソコンやタブレットに格納した各種ファイルを、ドコモのクラウド上で管理できるサービス。クラウドにアップロードすることで、万一の故障や紛失時でもデータを復元することができる。

Interview: FUKUSHIMA TRANSPORTATION

まちづくりと活性化に貢献

福島を元気にする観光サービスを

「後方席では見えにくかったスケッチブックの文字も、タブレットから車載テレビに映し出すことではっきりとご覧いただけます。スライドショーを見ながら「また来たいね」という思いにつながっていただけなのが嬉しい」と植野さん。



福島交通株式会社
 福島支社 ガイド
 植野 真樹子氏

災害からの復興を目指す福島の人々にとって、生活と観光産業を支える同社への期待は大きい。「今以上に住みよいまちづくりに貢献すること、そして福島を元気にするため、交流人口を増やす魅力的な観光サービスを提供することが当社の使命。そのためにITを積極的に活用していきます」と武藤社長は力を込める。さまざまな願いと夢を乗せて、今日も福島交通のバスは走り続ける。

福島交通株式会社 www.fukushima-koutu.co.jp



株式会社NTTドコモ
 東北支社 福島支店
 法人営業担当主査
 伊藤 仁

福島交通株式会社さまへ営業担当者からのコメント
 導入時に開いた、バスガイドの方々に向けた操作研修の支援を高く評価していただきました。今後もタブレットの適用範囲の拡大や、路線バスへの「docomo Wi-Fi」導入など継続的なご提案をさせていただきたいと思っております。